

**令和4年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議市町村情報交換会
概要**

区分・会場	県南部 大河原合同庁舎 別館2階第2会議室
開催日時	令和4年12月15日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
出席市町村 (出席者数)	名取市(6), 岩沼市(3), 蔵王町(2), 七ヶ宿町(2), 大河原町(3), 柴田町(2), 川崎町(1), 丸森町(4), 亘理町(3), 山元町(4) 合計30人
アドバイザー (連絡会議会員)	東北福祉大学 教授 高橋 誠一 氏 仙台白百合女子大学 准教授 志水 田鶴子氏 公益財団法人さわやか福祉財団 インストラクター 渡辺 典子 氏 岩沼市社会福祉協議会 地域福祉課長 渡邊 真 氏 宮城県社会福祉協議会 震災復興・地域福祉部長 及川 一之 氏
オブザーバー	東北厚生局(2), 宮城県仙南保健福祉事務所(1)
情報交換での 主な意見・内容	<p>テーマ①「今までの活動での成功体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 老人クラブ会員がボランティアとして町内会と連携しながら困っている人や認知症の方のお宅を週1回訪問。老人クラブ会員が増加し、表彰もされた。 ○ マップをつくり、区長や民生委員へ配布した。 ○ ワークショップを行い、集いの場になっている。 ○ 地域住民との話し合いの場を持つことで、困りごとを抱える地域住民の個別の情報が入ってくるようになった。 ○ 今年度7回目の地域支え合い報告会を開催した。地域住民が活動発表することで、普及効果が見られる。 ○ 200程度の地域資源を把握した。関係者のみ分かっているので、周知していきたい。 ○ 地域活動を冊子化し、今行われている活動を伝えている。 ○ 移動販売の情報マップをつくり可視化し、ケアマネ等と共有している。 ○ 広報に地域活動紹介を載せている。(※複数意見あり) ○ 出張販売や出前等の情報をCoでまとめた。 ○ 民生委員, ボランティア, 健推員を集めて情報共有を行っている。 ○ 民協, 包括, Coが連携し, 気になる住民の巡回訪問を実施している。 <p>テーマ②「コロナ禍での地域の現状や, コロナ禍だからこそその取組や発見」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サロン等も出席者少なく, 中止になることが多い。 ○ 外でならと, ラジオ体操を始めた住民もいる。雨雪で中止となると, 地元の企業の事務所を借りて実施している。勉強会も行うようになった。 ○ 住民は家の中に閉じこもりがち。 ○ 小学校の福祉教育と地域をからめた関わりが増えた。手紙のやりとりや, 音楽発表会をオンラインでサロンにつなぐなど, 会えなくても交流ができた。 ○ 市として, コロナ禍でもサロンは行っている。 ○ 8地区のサロンでは, 毎月1回行っている。女性の会が多く, 集まる人は同じ。参加されない人をどうしたらいいか。 ○ 緊急事態宣言の時のみ休んだ。住民に任せている。 ○ 「集める」は長続きしない。「集まる」は続いている。 ○ コロナでは絶対に活動しない, という地区もある。 ○ Coとして地域に出向くことと, 楽しむことは続けている。

- 地域差がある。外でできる活動は継続できている。
- つながりが薄れたり切れたりすることもある。
- コロナ以前とまではいかないが、ここ半年で活動は再開しつつある。
- 住民の身体機能が低下している。介護保険新規申請、フレイルが増えている。
- 地域活動の5割ほどが再開しているが、お茶のみは未だ行われていない。
- デイサービス利用希望者が増えている。自宅にこもりがちになったことで、家族が心配し包括への相談に至る。
- サロン等に来て、食べ物は持ち帰っている。本当はみんなで食べたいとの声はある。持ちよりできず張り合いがないという意見もある。
- 通いの場が、わんわん見守り隊（35人、35頭）という活動に変化した。少しずつ参加者が増えてきている。
- サロンが休止することで閉じこもりになるが、本人は気にしていない。
- サロン、地域活動、リーダーの意見、集会所の利用等の問題がある。（※複数意見あり）
- 外での活動であればと言っても、寒い時期には屋内になるので、コロナの影響を受けてしまう。
- 住民の筋力低下が見られる一方で、活動回数が増えたところもある。
- ペタンクが人気。他の団体とのつながりも持っている。
- 家族に「行くな」と言われるから外に行けない人もいる。
- 感染状況に左右される。町から中止と言われる場合もある。
- やらないところはいつまでもやらない。やるところはやる。
- 屋外の活動は積極的で、男性の参加者も多い。
- 新しい取組をする人も増えている。子ども食堂や老レクなど。楽しみが主のところが多いなかで、友愛、見守り、ゴミひろい等を目的にしている。
- コロナで休んでいたからこそ、集いや活動の必要性が分かったようだ。
- 市長がほめてくれることで、やる気につながっている。
- 社協の空きスペースを利用し、手仕事したものを展示したり、書きぞめを展示する予定。住民のモチベーションアップにつなげたい。
- コロナ禍ではあるが60ほどのお茶飲み会行われている。
- コロナの正しい知識も必要。感染対策をしながら大丈夫！と背中を押してくれる人がいたら良い。
- やろうと思っても中止になることがあり、モチベーションの維持が大変。

テーマ③「今力を入れて取り組んでいること」

- 地域で活動している人たちとの座談会。
- 移動販売とCoが情報共有して、買い物弱者への対応を考えている。
- 地域ケア会議で、通いの場に行くことが難しいとの意見あり。それを受けて、公共交通機関との話し合いを行った。
- 老人クラブの見守り活動、奉仕活動を市全体に広げていく。
- 事業としての見える化、資源の見える化に悩みが多い。見える化のためのマップ作成を行っている。
- 住民からの相談などに対して、1層Coと2層Coと一緒に動き考える。
- いき百体操を町で勧めている。筋力、たんぱく質量がわかる機械を設置し、効果を実感してもらう。
- 民生委員から情報提供してもらった心配な方50人程度に、包括、民生委員、Coで個別訪問をした。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町内会，元市議会議員，ケアマネ，1層 Co，2層 Co で協議体を実施。 ○ 「地域支え合いサポーターのつどい」をパンフレットで見える化している。 ○ 町内の介護保険サービス事業所をまとめ冊子にしている。 ○ 地域の見守り隊や包括と同行することで，地域支援と個別支援どちらも網羅できるようにしている。 ○ 独居高齢者の食事について，地区で配食サービスを開始した。 ○ ニュースポーツが盛り上がっている。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見えない人，出てこない人，つながっていない人をどうつないでいくか。 ○ Co 業務以外の他業務が忙しい。 ○ 移動手段がなくても Amazon を利用するなどの手段がある。 ○ 若い人がいないのでカーシェアリングの活用は難しい。 ○ 町でデマンドタクシーを始めたが，使い方が不便との声がある。時間の縛り，予約が難しいなど。 ○ 困り事，怪我をした時，集合住宅の階段下りられないなど，外出したいけど困難な人もいる。灯油を上階に運べない等も。 ○ 移住者政策が進んでいる。まちづくりと連携して元々住んでいる人たちと引っ越してきた人をつなごうかという話も出ている。 ○ 健診でバス出したのに乗る人いなかった。 <p>※テーマ④「自治体の役割と生活支援コーディネーターの役割」の意見交換無し</p>
<p>アドバイザーからコメント</p>	<p><志水氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 直接会って喋ることが必要。色々な情報を共有すると孤独にならずに済む。自分たちもつながることが重要である。 ○ 自ら活動できる住民と，誘われれば動く住民，あまり関心が無い住民など，住民のタイプによって層を分けどのように分析するかで，アプローチの仕方が変わってくる。住民をどう捉えていくかということと，地域の要介護度などのデータを合わせた形でアプローチしていくと，対象の層がどれくらい回復するか等の見える化が図られる。フレイル予防にどう繋がっているか，社会参加の割合がどう変化したかなど，切り口をどのようにしていくかを行政と一緒に考えて進めていってほしい。 <p><渡辺典子氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちの活動は，困った時に「助けて」と言えるような地域，困っていることを気づき合える地域をつくっていくこと。 ○ 地域で今できていること，していることを大切にすることが重要である。 ○ 地域で自らできる人たちを知ること，本当に支援が必要な人たちが見えてくる。そういった時に，行政や包括，Co 等が連携して，互いの役割で支えていく。今日は，企業との連携や庁内の他課との連携をすすめていこうなどの話題も出ており，視点が広がってきていると感じた。 <p><渡邊真氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 皆さんがそれぞれの立場で悩んでいることなどを聞くことができた。 ○ 私は私の立場で，上手くつなぐ役割を担い，皆さんが活動しやすい環境を整えていきたいと思う。 <p><及川氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍であっても継続できている地域活動はある。なぜ活動できているの

	<p>か、というところを一度考えてみてほしい。その方たちは、周りから言われるのではなく、自分たちで考え決めて活動している。これが住民主体であり、これこそがコロナ禍であっても活動が継続できる要因の一つだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企画して住民を巻き込んだ新しい取組を始めても、一回きりのイベントで終わってしまう。住民が主体となって取り組めるように工夫した働きかけを行い、側面的、後方的な支援を行くことも生活支援 Co の役割の一つではないか。 ○ 今日同じグループになった方同士で、日ごろから情報交換できる関係になってもらえると良い。
<p>オブザーバー からコメント</p>	<p><東北厚生局 古川氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ このような会には初めて参加させてもらった。現場の声を聞かせていただき、大変参考になった。 ○ コロナ禍で、オンラインの研修等が主流となっているが、今日のように顔を合わせて意見交換している様子を見ると、顔を合わせることの重要性を改めて感じた。 <p><東北厚生局 佐藤氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 皆さまの活動を、宮城県からの報告で知ることはあるが、このように現場で活動される方の生の声を聞いたのは初めてである。今後、皆さまの悩んでいることなどの声を届けられるようにしていきたい。 <p><宮城県仙南保健福祉事務所 遊佐氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なかなか住民の声を聞く機会が少ないため、今日参加したことで地域の現状や取組を知ることができた。
<p>全体講評 高橋副議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ前からこの事業を行っていたことは良かった。この事業が無くてコロナを迎えていたら、どうなってしまったか、孤立した人だらけの地域になっていたかもしれない。ここを評価しなければならない。どうしてもコロナ前と後を比べると、減ってしまったものが目立つ。その減ったことを見える化しても意味は無い。この事業があったから続けられた、孤立した住民を気に掛ける声があがっていることなど、素晴らしいことに着目して見える化してほしい。 ○ 地域に支援が必要な方が見えてきている。これは、介護保険事業の中で生活支援体制整備事業を進めてきた意味ではないか。 ○ この事業は、行政担当者や Co だけが頑張っても意味が無い。個別ケアに従事するケアマネジャーなどがこの事業を理解することで、困った人が安心して地域で暮らせることにつながると思う。 ○ まだまだコロナで大変な時期続くが、良いチームをつくって事業を進めてほしい。

区分・会場	仙台 TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール1
開催日時	令和4年12月16日(金)午後1時30分から午後3時30分まで
出席市町村 (出席者数)	仙台市(18), 塩竈市(5), 富谷市(1), 七ヶ浜町(2), 利府町(3), 大和町(1), 大郷町(1), 大衡村(1) 合計32人
アドバイザー (連絡会議会員)	東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 仙台市社会福祉協議会 事務局次長 岩渕 徳光 氏 仙台白百合女子大学 准教授 志水田鶴子 氏 宮城県社会福祉士会 社会福祉士 真壁さおり 氏 宮城県社会福祉協議会 震災復興・地域福祉部長 及川 一之 氏
オブザーバー	東北厚生局(3)
情報交換での 主な意見・内容	<p>テーマ①「今までの活動での成功体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護保険を使うまでもない方を、地域のダンベル体操へつないだ。 ○ ウェルシア薬局と協働で出前講座を実施した。 ○ 移動販売車の日に集会所を町内会長が開けてくれ、お茶のみの場になった。 ○ ゴミ捨てができない人のために、お助け隊や町内会長に働きかけ調整した。 ○ 出張相談。 ○ 錦ヶ丘では、認知症フレンドリー講座を開催。3年間、10人程集まっている。認知症の方への声かけ訓練などを行う。新聞に掲載された。 ○ 1層と2層の定例会で、支えたり支えられたりとフォローしている。 ○ サロンに来られない方のために手紙を渡している所がある。つながりを切らさない取組となっている。 ○ コロナで活動がとまって集会所が閉鎖となっていた。包括が町内会長に直接相談し、活動を再開できた。 <p>テーマ②「コロナ禍での地域の現状や、コロナ禍だからこそその取組や発見」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 俳句の同好会で、集まれない時にはメールや手紙を使い、活動を維持した。 ○ 早い時期に感染対策の勉強会をするなど、感染対策をしっかりと活動している所もあった。正確な対応をすれば安心して活動できることを伝えている。 ○ コロナ禍でどのように活動をしているのか聞き取りをした。 ○ 普段から地域に足を運ぶこと、キーパーソンとの関係性が大切だと感じた。(※複数意見あり) ○ 地域のリハビリ専門学校に、住民の体力測定をしてもらい、運動に対する意欲向上を図っている。学生もコロナで実習も無く丁度良かったとのこと。 ○ 行政が地域活動実践のためのガイドラインを作成した。お宝発表会も中止せずに継続している。 ○ 活動者に感染症を正しく恐れることを伝えている。 ○ 行政の後ろ盾があると活動を推進しやすい。 ○ コロナ後、20人のメンバーを2グループに分けて活動再開したが、参加者から「元に戻してほしい」と意見が出て、元に戻した。 ○ 再開の声かけをしても、地域によって反応は様々。代表者や町内会長がやらないと言うとやれない。責任のある方ほど「何かあったら」と考えている。(※複数意見あり) ○ 町内会長がやらないと言っている地区では、ぬり絵や問題集を渡して町内で取組み、それを集会所で展示していた。 ○ 包括、集会所単位で、お宝発表会を開催した。

- サロンの休止はほぼ無い。包括からアプローチしなくても続いていた。
- 住民から「ライフスタイルが変わっているから今さらみんなで集まらなくても…」という意見があった。
- 夏に数か所サロン再開したがまた休止になった。コロナ感染予防の意識が高すぎてなかなか再開できない。
- 包括で、集会所を地域の通いの場に行っている。季節の物を作ることを目的に集まってもらう。どう地域の自主的な取組に移行するかが課題。
- コロナで閉じこもりを心配していた。地域住民同士で電話をかけ、一緒に歌を歌うなどして楽しみやつながりを切らさないように活動していた。
- 再開できずそのままフェードアウトしてしまう所もあった。
- 入ってくる人がいない、人数が少なくなっている、コロナで遠慮して来ない、家族に止められる等の声が聞かれる。
- 「このまま休止はだめだ」と自主化し再開した所もある。住民側から声をあげてくれるようになった。集まらないことにリスクを感じる住民が増えた。(※複数意見あり)
- 活動することで「出る杭は周りから打たれる」ことになったサロンもある。
- 活動の場に来られない人はどうするか、について考えている。
- 新たにお散歩会が立ち上がった。
- 外で体操、学校のグラウンドで体操教室、大人の遠足を行っている。
- 月1回認知症についてなど DVD 上映会を実施している。
- スマホの使いかたを教えてほしい、というニーズが出てきた。

テーマ③「今力を入れて取り組んでいること」

- 福祉事業者とコラボしてサロンを再開した。
- 団体名、どんな活動かを聞いて、集めた資源を一覧表に行っている。(※複数意見あり)
- 3か月に1回気になる活動取材して広報誌に載せている。
- 担当エリアの公園が使われていない。協議体委員と探索し活用方法を考えている。ハイキングコースは倒木があるなどを行政に報告した。
- 社会資源一覧表をケアマネに開示したいが、個人情報問題もあり難しい。
- 出張相談会を3か所で実施。回覧板、チラシで周知した。
- 読みやすさ、文字の大きさ等を工夫しチラシを作る。
- 市民センターと共催で「ふるさとカフェ」を実施している。
- 児童センターとモルックを実施し、興味を持った方には運営手伝いをお願いしている。
- とにかく顔を合わせる。
- ケアマネと民生委員との交流会を実施。
- 災害弱者をどう支援していくか、連携していく取組が始まった。施設との横の連携を強めたり、障害者への支援も検討していく。

テーマ④「自治体の役割と生活支援コーディネーターの役割」

- 保険者機能をきちんと果たすことが大事。過剰なサービス提供にならないよう、町がきちんと管理している。
- データをうまく使う。
- 介護予防と生活支援体制整備事業は連動していかないといけない。
- 地域、庁内、課内と対話を繰り返していくこと。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ あまり連携が図れていないかも。 ○ 区、1層 Co, 2層 Coでの3者ミーティングや区ごとの機能強化専任職員ミーティングを行っている。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症カフェになかなか人が集まらない。まだまだ知られたくない人が多いのかもしれない。 ○ 様々な社会資源（カーブス、ドコモ）から包括や社協へアプローチあり。信用していいのか悩みどころ。 ○ 「分からないから教えて」の姿勢で地域に入ると良い。 ○ 社会福祉法人の地域貢献。思いはあるが、職員が忙しくてできていない。 ○ 介護保険利用ありきの相談が多い。（デイサービスを使いたい、ヘルパーを使いたい等） ○ ヘルパーが入らなくても、近所の支えで生活できている方はいる。 ○ 協議体の意味、位置づけを住民が理解しているか分からない。 ○ 地域の方から「包括は困ったことがないと言えないところだと思っていた」と言われた。
<p>アドバイザーからコメント</p>	<p><岩淵氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各地域包括支援センターでは、忙しい中でも工夫しながら各事業に取り組んでいる。そこに至る過程において、包括職員間での知恵の出し合いや、近隣の包括へ相談するなどしていることができている。その他、包括内だけで解決するのではなく、地域の社会福祉法人と役割を確認し合うなど、人と人がつながり合うことが大事であることを改めて感じる事ができた。 <p><志水氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ この事業は担当者一人ではできない事業ではない。様々な機会をとおして、担当者が色々な人とつながることが重要である。多職種とつながる力がないと前に進まない。組織の中、組織の外、そして地域でそのようなつながりを持つことから始めていく必要がある。 ○ 仙台市泉区では月1回 Co が集まり話し合いをしている。多分その場は楽しいものであって、苦となる会議ではないはずである。モチベーションが上がる会議の持ち方というのでも考えていかなければならない。 ○ 地域や多職種とつながる際には、互いにメリットが無いと難しいもの。お願いするだけではない関係性を築いていくことが地域づくりの基本だということ再認識した。 <p><真壁氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会福祉法人は地域貢献を進めているので Co はつながりやすい。一方で、地域の企業などとはつながることは容易ではなく苦勞している話が多く出た。そのように困った時や悩んだ時に、日ごろから近くに情報交換できる関係性を持つ人がいることが大切になってくる。 ○ コロナ禍での地域づくりの事例として、ICT を活用している話が出た。高齢の方ではなかなか扱うのが難しいというのが一般的な印象だが、それでもコロナ禍をきっかけに取り組もうという機運が高まる仕掛けをしていくことが大切なことである。 ○ 地域住民は協議体のことをどれだけ理解できているか、という話題も出ていた。協議体というものはあくまでも手段であって、協議体を活用して目的に近づいていくということ。協議体を行うことが目的となってしまうように、

	<p>住民にどう説明していくかを考えていくことが必要である。</p> <p><及川氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍でも地域活動を続けられているところはある。では、なぜ続けられているのか？そこを知ることが重要になる。名取市では早い段階から地域活動のガイドラインを作成し、住民が安心して活動できる環境を整えた。そのような事例を参考にしながら地域の支援を行えると良いのではないか。 ○ 今日の情報交換会の機会をとおり、Co 自身もつながり、個々で相談し合えるような関係性を築いてもらえると良い。
オブザーバーからコメント	<p><東北厚生局 岩渕氏></p> <p>本日参加したことで、様々な工夫した取組を知ることができた。東北各地で話を聞いていると、地域への入り方が分からないなど、現場で働く方々の悩みを聞く機会もある。今日聞いたことを事例として様々な場面で提供していきたい。</p>
全体講評 大坂議長	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナを正しく恐れて自分らしく暮らすこと。専門職が入りながら、住民に正しい知識を身に付けてもらう取組をしていくことが重要である。 ○ 介護保険は、要介護でも要支援でも自立を目指している。自分自身が介護保険を正しく理解することから始める必要がある。 ○ 何のために生活支援 Co として仕事をしているのか、保険者として機能するために何をしているのか、住民が一日でも長く住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするためである。 ○ コロナ禍で社会参加やつながりのリスクが高まっている。介護保険の申請理由は、コロナ前と後でどう変わっているか、そのような変化を調べていくことが必要である。 ○ 担当者一人では進められない事業であるため、決して一人で抱え込まないこと。対話を重ねて方向性と取組を決めていくことが必要である。 ○ 協議体を何回開催したかは成果ではない。協議体を実施してどれだけ住民の健康度が上がったかが成果であり、定量と定性データを分析して成果を導くことが重要となる。 ○ 腑に落ちる説明ができるか、腑に落ちるように話を聞けるか、コミュニケーション力が重要になる。 ○ つながる、共有する、つなげる、生み出す。新しいものをむやみに作るのではなく、今あるものを上手に使っていくことが必要である。 ○ 行政には、事業の公正さが求められている。誰に対して、何を行い、どう変わったか変わらないか、次に何をするか、繰り返して精度を上げていく。そのうえで公平に様々な地域で事業を展開できるようにしていくこと。

圏域・会場	県北部 サンシャイン佐沼 鳳凰の間
開催日時	令和4年12月21日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
出席市町村 (出席者数)	石巻市(4), 気仙沼市(7), 登米市(9), 栗原市(12), 東松島市(3), 大崎市(2), 色麻町(1), 加美町(2), 美里町(2), 女川町(2), 南三陸町(2) 合計46人
アドバイザー (連絡会議会員)	東北福祉大学 教授 高橋 誠一 氏 仙台市地域包括支援センター連絡協議会 幹事 菅原 幸江 氏 宮城県社会福祉士会 社会福祉士 真壁さおり 氏
オブザーバー	東北厚生局(2), 宮城県気仙沼保健福祉事務所(1), 全国コミュニティライフサポートセンター(1)
情報交換での 主な意見・内容	<p>テーマ①「今までの活動での成功体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住民の活動を音健アワード(日本音楽健康協会)に応募した結果, 大賞をもらった。そこから継続している。 ○ ケアマネ側から, 事業説明と情報交換の場を設けてほしいと言われた。ケアマネと民生委員との情報交換会を実施した。 ○ フレイル教室をきっかけに, 八百屋(自分たちが作った野菜を販売する)ができた。70~90歳代の住民が集まり, それぞれ店主になっている。 ○ 野菜の直売所(さんちよくまっちゃん)を開いた。山間部の方々がフードロスにならないように, との思いから, 野菜だけでないセットを売っている。これが, 生きがいとやりがいになっている。 ○ 包括から, 男性の独居高齢者が孤立しているとの相談をきっかけに, 男の料理教室, 元気アップ体操, 健康教室を週に1回開催している。男性のみの活動は初めてで, 男性が参加できる活動が少しずつ増えてきている。参加者同士のつながりもできてきている。 ○ 100歳体操が67か所立ち上がった。 ○ 協議体の設置がきっかけで, 住民同士のつながりができつつある。 ○ セブンイレブンと見守りを提携し, 安否確認を行っている。 ○ ミニデイと老人クラブに声掛けをして「日池島」(サンポンドランド)に参加した人が倍になった。普段あまり参加しない人や男性が来てくれた。 ○ 地区での「お宝発表会」を実施し, 活発な活動を紹介。紹介された老人クラブの活動の背中を押すことができた。 ○ 児童クラブの場所を, 日中は老人クラブがサロン活動で使用している。協議体で出た話がきっかけで場所の確保につながった。 ○ コミュニティビジネス(市民が主体となって, 地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業)で, 困っていることは何か, アンケートをとった。 <p>テーマ②「コロナ禍での地域の現状や, コロナ禍だからこそその取組や発見」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナだからこそつながることの大切さ伝えやすい。若い人達にも伝える事が大切。 ○ 地区ではサロンをしていないが, 空家を提供してもらい約10人でお茶のみを行っている。コロナで各家への行き来が無くなったが, 新しいものができる。 ○ コロナになるのが怖いか, フレイルになるのが怖いか, 住民が考えるようになった。 ○ 元々コミュニティができていると, コロナ禍でも集まっている。 ○ 市の助成金があるために(回数制限等), 活動を休止していない団体がある。 ○ 戸別訪問による安否確認。何かのついでの見守り, 遠くからの見守り, 気に

- かける地域づくりをすすめている。
- 敬老会ができないので地域でお菓子を配る、手洗い講習会、エコバックで地域の商店と交流などを行っている。
 - 活動できていないところでは「責任とれない」という声がある。(※複数意見あり)
 - 個別での訪問を実施しているが、皆集まりたい気持ちは持っている。
 - 今年からミニデイを再開したところがあり、野菜や料理の物々交換が行われている。
 - 2年間お茶っこ会を再開できていないところがある。家族がいるから外に出て来れないとの声が聞かれる。
 - 広報誌で元気な人を紹介。
 - 責任のない近所の好きな方々同士の集まりは続いている。
 - 「感染対策すればできる」と前向きなところは活動している。
 - 活動できているところを紹介して活動を促している。
 - 自己判断にまかせている。(自分たちで判断し出席、欠席する)
 - 国からの情報を提供し、感染対策すれば活動できることを伝える。
 - 100歳体操は約130人参加している。
 - 自治会や町内会よりも、老人クラブの活動が活発である。
 - 集いの場は中止したが、見守りの場としてつながりは維持できている。
 - 農村部では、サロンなどで食事を摂ることも警戒なく実施している。
 - 20団体の半分は休んでいる。
 - 高齢者だけでなく、PTAや子どもたちの活動も無い。
 - 活動している地域でコロナは出ていない。コロナを心配して活動が停止している地域では、フレイルの問題が出てきている。
 - やらない声に合わせて、やりたい人が我慢している。

テーマ③「今力を入れて取り組んでいること」

- 70行政区中27行政区で、3か月に1回話合いの場を持っている。
- 高齢者のみの支援ではなく、若年層への支援も必要と思う。インターネットやスマホの使用を、若年層に教えてもらう機会をつくりたい。
- ふれあいの居場所づくりとして、空き家の利用を検討中である。
- 協議体の取組として「〇〇地区ささえあい推進会議」を開催。
- 集めた資源をまとめ、広報誌に掲載している。
- 地区社協役員や区長などを対象とした「つながり研修会」を開催した。
- 地域資源のリスト作成。(※複数意見あり)
- 地域ケア会議へ、生活支援 Co が参加している。
- 「協議体とは？」に力を入れて説明している。1層協議体でどんなことをしているか説明することができるように、物語にしたものをマンガにした。
- 2層協議体を設置したい。事業所やケアマネに委員になってもらう予定。
- 2層 Co が資源マップをつくり、1層でまとめ全市のマップを作成している。
- お茶会の中でニュースポーツを実施。手づくりのモルックを体験するなど、他の地域でもやってみる。
- コミュニティカーシェアリングを導入した。運転手の確保が難しい。役所で車を購入し、地域へ車を貸出す。
- 民生委員とケアマネにも参加してもらい、住民との情報交換会を実施した。
- 各地区の協議体の取組について共有した。

	<p>テーマ④「自治体の役割と生活支援コーディネーターの役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住民のしたいことを形にしていくのが Co だと思ふ。 ○ 活動への焚き付け役が Co で、住民のモチベーション上げる。 ○ Co は数字ではなく言葉で伝える。 ○ 介護保険と地域福祉との連携（ケアマネと Co との連携等）が必要と思ふ。 ○ 話合いするが結論が出ない。 ○ 2層は地域ごとの課題，1層は全体の課題と共通している課題。 ○ 社協の他の事務があるから進まない。成果求めてしまうが，目標と方向性を共有することが必要。 ○ 定例会議で他の地域の事例など情報を共有している。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1層協議体の役割が明確でない。テーマの設定どうするか，委員の任期があり人が変わってしまう。 ○ ケアマネにもこの事業を理解してもらい一緒にやれたら良い。 ○ デイ利用するようになってサロンに行けるように利用日を変更してくれるケアマネとつながりたい。実際にできているところはある。 ○ Co とケアマネの研修会を開き，情報交換できれば良い。 ○ お宝を発見，発掘した後，それをどうしていくか。 ○ 便利になって住民同士のコミュニケーションが減った
アドバイザーからコメント	<p><真壁氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度の情報交換会では，この事業に対する不安や悩みなどの話題が多く出ていたと記憶している。しかし，今日は前に向かっていて，明るい話題が沢山出ていた。それは，コロナ禍でも皆が試行錯誤と工夫を重ねてコツコツと取組を進めてきたからこそである。 ○ 情報交換では，取組事例を紹介するだけではなく，何のために行っているかという根本の部分話すこともできていた。目先のことだけではなく，その先の目標まで話していることが印象的であった。 ○ 取組を重ねていくと，上手くいかないこともある。その時に，自由に軌道修正できるようになると，積み重ねがなお意味のあるものになるのではないかと。 <p><菅原氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対面での会話が大切であると改めて感じた。オンラインだけではなく，直接顔を見て生の声を聞くことで，より活発な意見が出るのだと思ふ。 ○ 生活支援 Co は，悩みながらも前に進まなければいけない状況である。何か一つ突破することで，苦悩が楽しみに変わるという素晴らしい事例があった。
オブザーバーからコメント	<p><東北厚生局 筒治氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対面で情報交換を行うことがとても意義のあることだと改めて感じた。 ○ フレイルが怖いのか，コロナ感染症が怖いのか，という話題が印象に残った。 ○ 生活支援体制整備事業は高齢者を主とした事業であるものの，子どもや障害者，引きこもりなど，多世代で自然に支えあえる関係性の価値に気づいてもらうことが大切だと感じた。 <p><東北厚生局 小野氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私は昨年度まで岩沼市の介護保険事業を担当しており，生活支援体制整備事業にも携わらせていただいていた。やはり皆同様の悩みを抱えていると感じたと同時に，この事業は地域性の影響が大きいということも改めて感じた。 <p><気仙沼保健福祉事務所 熊谷氏></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のつながりづくり，支え合い体制づくりは，コロナ禍で集うことが難しい中でも工夫して継続できていることは，本当に素晴らしいことだと思う。 ○ 生活支援体制整備事業は，一朝一夕で目標や目的が達成できるものではない。地域性が影響することではなかなか数値での評価はしづらいということを感じている。数値ももちろん大事だが，関わっている方の変化や地域の変化を言語化して残していくことも一つ大事な取組になり，Coのモチベーション維持にもつながると思う。 <p><CLC 木村氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自宅で行うお茶のみなどの小さな集まりや，コロナ禍で新たに始まった活動など，かなり細かな部分まで把握されていると感じた。コロナ禍でも地域住民と関わりを切らずに関わっているからこそである。 ○ コロナ禍で始まった活動は，コロナが収束しても続いていくものが多い。このような活動は本当に強く，貴重な資源になる。コロナは不幸な話題ではあるが，コロナのおかげでできているものを大事にしていければ良いと思った。
<p>全体講評 高橋副議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政の方々にとって，この事業はなかなか成果を示しにくく，他の事業とは違う性質のものである。地域の活動を応援して地域住民が元気になることをどう評価するかが難しい。 ○ 今日の情報交換のテーマが前向きなものであったため，コロナ禍でもできていることについて話し合い，皆改めて元気をもらったのではないかと思う。これは住民にとっても同じことで，コロナになって何が大変かを聞いたらいくらでも訴えが出てくるもの。 ○ 情報交換では「集まるのが無理だから個別支援に力を入れたことで，地域で大変な思いをしている住民に目を向けるようになった」や「集まれないから皆で見守りをするようになった」などの意見が出ていた。これは，コロナ前から地域づくりを進めていたことが成果として出たものではないか。 ○ 新たに生まれた成果はカウントできるが，続けていることの成果は計りにくい。「集い場は無くなったけど，見守りは続いている」であれば，見守りをカウント1としてみるなど，活動を分けて考えるなどの工夫した成果の表し方もできる。 ○ もしこの事業が無かったら，コロナ禍で孤立する人が増え大変なことになっていたかもしれない。起こっていないことを評価することは難しい。問題が起こる前に変化に気付いていた，気付いた変化を専門職に相談していたなど，エピソードを大切にしていくこと。 ○ この事業を介護保険の枠組み以外で実施していたら，福祉職とつながりを持つことは難しかったかもしれない。専門職の方にこの事業を理解してもらったり，ケアマネジャーに共有したり，地域ケア会議にCoが参加して地域の方の生活ぶりや資源について話す機会が増えてきた。介護保険サービスを利用している方のサービスの利用の仕方についてCoが提案していけることはとても意味のあることである。 ○ 介護保険は，要介護状態になっても安心できるというものであるが，困る前から支援をしてもらえることで，困ってからでも安心して生活できるという取組にしていける。今の仕組みでは，どうしても困ってから支援することになってしまうが，困る前から生活支援Coなどが関わることは，ケアマネジャーにとっても大きな意味があると思う。 ○ 高齢化が進んでいる現代でも，まだまだ元気な高齢者は多い。そのような方もいずれば支援が必要になり孤立するかもしれない。孤立してからつながることは難しい，元気な高齢者と今つながっておくことが必要である。